

須賀川「松明明かし」 ～学校挙げての地域伝統行事への参加～

福島県立須賀川創英館高等学校

福島県須賀川市で開催されている「松明あかし」は、430年以上続く日本三大火祭りのひとつである。「松明あかし」の由来は、今から約400年前、当時の須賀川城主の二階堂氏が、伊達政宗に城をせめ落とされ、この時のはげしい戦いで戦死した多くの人々の霊を弔うために行われるようになったと伝えられている。

「松明あかし」は、例年11月の第2土曜日に開催される。開催当日は、長さ10m、重さ3トンもある巨大松明をそれぞれ約150人で担ぎ、「松明あかし」の会場となる翠ヶ丘公園内の五老山に向かって街を練り歩き、その後を武者行列や姫行列が続く。夕暮れになるころ、五老山の山頂に立てられた30本以上の本松明と須賀川城に見立てた仕掛け松明に火が灯され、勇壮な松明太鼓が鳴り響くなか、伝統行事が行われる。

本校では、例年地域との連携を図る行事として協力・参加している。本年度は、本松明を生徒会役員や応援団、地域行事委員の生徒が主になって製作した。製作に参加した生徒たちは、開催当日、自らの手で製作した松明に火が灯る光景をみて大変感動した。今回、「松明明かし」出発式を全校生徒参加で行い、地元須賀川市の伝統行事についての理解を深め、学校で一致団結して参加している自覚を持つことができた。

